

鹿島港洋上風力発電事業環境影響評価方法書について

鹿島港洋上風力発電事業は、株式会社ウィンド・パワー・エナジーが鹿島港港湾区域の南海浜地区における「再生可能エネルギー源を利活用する区域」において風力発電所を建設しようとするものである。

「鹿島港洋上風力発電事業環境影響評価方法書」について、鹿嶋市及び神栖市等の意見にも配慮しながら、事業者からの聞き取りを実施しつつ、慎重に審査を行った結果、環境保全の見地からの意見は下記のとおりである。

記

1 総括的事項

- 再生可能エネルギーの導入が進む中、大型の洋上風力発電事業の増加が予想されることから、本事業の環境影響評価が今後の類似事業におけるモデルケースとなることに鑑み、最新の知見や先行事例の知見、専門家の助言等を踏まえ科学的視点に立った客観的な調査・予測・評価を行うこと。併せて、事後調査（建設工事及び設備稼働後の環境の状況を把握するための調査）の要否について検討するとともに、その結果において予測範囲を超える影響が確認された場合は、その対処方法を検討すること。
- 準備書の作成にあたっては、図表を使いながら調査・予測・評価の内容を分かりやすく記載するとともに、専門的な表現については解説を付すなど、本事業が環境に与える影響について、地域住民等にも理解しやすいものとなるよう工夫すること。また設備の稼働後も、当該設備を活用した環境学習等の機会を提供するなど、引き続き本事業に対する地域住民等の理解を得られるよう努めること。

2 個別的事項

(1) 水質への影響

- 水質の調査については、表層と低層の流れが異なる場所があることや、設備設置前後で水流が変化する可能性があること等を踏まえ、水質の垂直分布にも考慮した調査を行うこと。

(2) 音と振動の影響

- モノパイル打設の際には、特に大きな音と振動が発生することが予測される。これらが生活環境に与える影響について、最新の知見を踏まえた調査・予測・評価を行い、それらの結果を地域住民に対して丁寧に説明し、理解を

得るよう努めること。

- ・ 建設工事中の海底振動による底生動物への影響については、最新の知見等を踏まえ、できる限り調査・予測・評価を行うこと。

(3) 動植物への影響

- ・ 鳥類については、コアジサシ以外の重要種についても営巣等が確認された場合は、適切に調査・予測・評価を行うこと。また、それら鳥類への影響が懸念される場合は環境保全措置を検討すること。
- ・ 動物や植物への影響については、文献調査のみでなく専門家等にヒアリングを行い、その意見を十分に踏まえたうえで調査・予測・評価を行うこと。
- ・ コウモリ類及び鳥類などの飛翔性動物への影響については、調査・予測・評価を行い、必要に応じて環境保全措置を講じること。また、環境保全措置の効果に不確実性が伴う場合は建設工事中及び設備稼働後の事後調査を検討すること。

(4) 安全・防災

- ・ 事業の実施に当たっては、環境への配慮に加え、事業実施区域における地盤の状況を踏まえつつ、地震や津波による設備の倒壊を防止するとともに、人の立ち入りによる転落事故の防止、付近を航行する船舶によるケーブル切断事故防止など、安全面での配慮を行うこと。また、防災面の検討に関しては、地球温暖化による気候変動の影響を加味するよう努めること。